県外派遣報告書

審判員名	箱石　拓也	所属　　埼玉県
大 会 名	令和5年度　関東高等学校男子バスケットボール大会 兼　関東高等学校男子バスケットボール選手権大会	
期　　間	令和5年　6月2（金）～6月4（日）	
会　　場	アダストリアみとアリーナ	

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
6月1日（木）	審判会議・レクチャー	自宅
6月2日（金）	事前準備	アダストリアみとアリーナ
6月3日（土）	1回戦・2回戦	アダストリアみとアリーナ
6月4日（日）	準決勝・決勝	アダストリアみとアリーナ

会議　講義　内容

レフェリーをする上で大切にしていることをレクチャーいただいた。以下にまとめました。
・Out putの重要性・・・情報を得ることは比較的容易なご時世、いかにして自分が持っている知識・情報をon the courtで表現できるか。→「知っている」を「判定できる」まで持っていく。単純に「知識」はテーブル上で会話のトピックを増やすためでなく、見たことない出会ったことのないケースに対してon the courtで「決断する」為の材料にしたい。
・Out putの阻害要因・・・外的要因として、準備段階での不安（このレベルのゲームは初めて。あの先輩審判と吹くのはちょっと。。）過去の経験からくる不安（苦手な選手やコーチのいるチームの試合。過去の失敗の記憶。）、不確定な未来への不安（失敗したらどうしよう。周りからどう思われるだろうか。）、自分自身の内的要因として、小さいことを気にしすぎる、強すぎるこだわり、情報過多（知識が消化不良）、過緊張（体が硬直）
・Out putを促進させるもの・・・自信と余裕、勇気「断固たる決意」、思い切り（≒開き直り）、目の前のことに集中しているメンタル
引き出しからスムーズに知識を取り出すための「ひらめき」「アイディア」「機転」、自分にとって適切な知識量、適度な緊張感と適度なリラックス
　メンタル的な部分の重要性が改めて学ぶことができた。コートに入る前の準備としてできることを徹底していきたい。また、審判は人間がやることなのでミスはつきものであるが、ミスや突発的に起きた現象に対して、いかにゲームへの影響を最小限にして食い止めるかも大切なことだと感じた。自分自身のメンタルコントロールをベースにして、ゲームへの準備等を実践していきたい。
・振り返りの変化・・・「映像」ではできないこと
現場での雰囲気（選手、コーチ、観客、緊張感など）を大切にしていきたい。映像で振り返った際に必ず思うことは、映像で見ると正しい答えは確かにこっちなんだけど、、、現場ではこう判断しました。→ゲームアジャスト感、フィット感、ゲームコントロールなど
全てにおいて映像が正しいとは限らない。現場で判断したことに対してもリスペクトを忘れずにしてほしい。

実技

担当試合	期　日	令和5年　6月3日（土）	(男子)　女子	2回戦
	対戦カード	本庄東（埼玉）　VS	國學院久我山(東京)	CC　(U1)　U2
	相手審判	CC　秋葉(茨城)　U1　箱石　U2　田中（茨城）		

ミーティング内容　　主任　　古畑香子（茨城）

PGCについて
メカニクスの確認と対戦カードについてミーティングした。
・メカニクス
①リード・・・ローテーションのタイミング、プライマリー意識
②センター・・・ストロングセンター
③トレイル・・・ロートレイル、ポジションアジャスト
・対戦カードについて
本庄東・・・トランジッションの中で得点の機会を増やしてくるチーム
久我山・・・基本的には1対1で勝負してくるチーム

ゲーム終了後
・勝敗が変わるような大きな問題はなかった。
・ゲームにアジャストできておらず、自分自身の判定と選手たちのリアクションとはズレがあった。また、1Qからクルーとも判定のズレがかなりあったことに戸惑いを感じながらゲームを進めてしまった。またLの際の立ち方や振る舞いについても改善するべきことがたくさんあったので、しっかり修正していきたい。
・メンタル的な要素として
自分の判定に自信がもてていなかったために、躊躇したり、迷ったり、不安になったりしてしまった。メンタルの揺れがかなり大きかったので、プレーに対して自分の考え表現することを閉ざしてしまった感があった。勿体無い試合だった。またチームには全く関係ないことなので、自分自身の100%の力を常に発揮できるようにしていく。

実技				
担当試合	期　日	令和5年　6月4日（日）	(男子)　女子	Bブロック準決勝
	対戦カード	湘南工科大（神奈川）　VS	國學院久我山（東京）	CC　(U1)　U2
	相手審判	CC　梶（本部）　U1　箱石（埼玉）　U2　土田（茨城）		

ミーティング内容　　主任　平出　剛

PGCについて
PGCについて
メカニクスの確認と対戦カードについてミーティングした。
・メカニクス
①リード・・・ローテーションのタイミング、プライマリー意識
②センター・・・ストロングセンター
③トレイル・・・ロートレイル、ポジションアジャスト
・対戦カードについて
湘南工科大・・・トランジッションの中で得点の機会を増やしてくるチーム
久我山・・・基本的には1対1で勝負してくるチーム簡単にメカニクスの確認と判定についてレクチャー

ゲーム終了後
・全体的には良かった。（それぞれのプライマリーでキチンと判定されていた。）その中で、気になったことをいくつかご指摘いただいた。
①プライマリーとアングルで自身の判定する場所を決めるのではなく、自身のエリアとして捉えていれば、判定する場所を迷わないで済む。また、そのエリアでのプレーに対して自然に判定の責任が出てくる。ポジションアジャストをしにいくなどのチャレンジも生まれやすくなる。
②飛び込んで笛を入れてしまったケースが本当に必要な笛だったかどうか？？慌てて吹いていることをなくしましょう。
③プレゼンの意識をもっと高く。→試合中、笛を加えたままプレゼンしていた。声を出す。笛を外して、緊張を解いてから、次のプレーへの準備をやってみる。
④メカニクスについて・・・４QのEOQの場面で、サイドスローインの際にボールを上のポジションから渡すのか？下のポジションから渡すのかの判断を間違えないように。ペイント内でのブロックorチャージ&ビックインパクトのケースについてはLとCでダブルコールだったが、どちらがプライマリーでもっていくのかをPGCで確認して自分たちの次のゲームでしっかりできるようにしておいてほしい。

全体の感想

まずはじめに、茨城県バスケットボール協会及び茨城県高体連バスケットボール専門部の皆様には細部にわたるまで御配慮頂き大変お世話になりました。また、今大会へ派遣して下さった埼玉県協会、日頃活動を共にしている県内審判員の皆様へ、この場をお借りして御礼申し上げます。

担当した2試合で感じたことは、それぞれのプライマリーを尊重すること、共通のクルーワーク、メカニクスの重要性、コミュニケーションの大切さを肌で感じることができた。また、大きな舞台だとしても臆することなく、判定をし、決断をする精神的な強さを学ぶことができた。メカニクス、判定、プレゼンといった課題は多く、反省は尽きることはない。しかし、この経験をいかして各所で行われる大会のクルーチーフやファイナルへの割り当てを勝ち取りたいと強く感じた。特に判定については、慌てて笛を鳴らしてしまうこととプライマリーではないエリアを飛び込んでしまう癖があることが課題である。さらに、たとえプライマリーを越えられたからといって慌てることなく自身の判定を貫く強さも必要であることとゲームフローを意識した判定をすることもチャレンジしていきたい。
いつ？どこで？何を？誰に？判定して笛を入れて、どのように？試合を進めていくのかをこだわっていきたい。

A級審判員として初めての男子関東であったが、1試合目は自分を出せずに引いてしまった。しかし、準決勝では、しっかりと自信をもって判定ができたと思う。派遣されるたびに感じることは、一人ひとりの審判員には必ず価値感や考え方があり、それを一つでも吸収できたことは非常に大きな収穫だった。今回の経験を必ず埼玉に還元し、切磋琢磨し、レベルアップに繋げたい。

県外派遣報告書

審判員名	村上　翔	所属　U12
大 会 名	令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会	
期　　間	令和５年６月３日（土）	
会　　場	アダストリアみとアリーナ	

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
６月１日（木）	審判会議、開講式	オンライン
６月３日（土）	大会１日目	アダストリアみとアリーナ

会議　講義　内容

●東京都バスケットボール協会　S級審判員　東 祐二 氏より
映像などが多く出回っていて情報を得ることが比較的容易な現代において、いかにアウトプットしていくかが重要である。「知っている」状況から「判定できる」状況へしていく。
アウトプットの阻害要因を外的面（準備段階など）や、内的面（過度のこだわり、過緊張など）から分析して防ぎ、自信や勇気、適度なリラックスをすることでアウトプットできるようにしていくことが必要である。

●栃木県バスケットボール協会　S級審判員　増渕 泰久 氏より
映像の用い方には、工夫が必要である。現場での印象や求められていることなどの現場でしか感じられないこともある。個性や表現、考え、コミュニケーションなど映像には映らない部分があることを理解する。
一方で、メカニクス（＝判定するための道具）は、映像で客観的に見ることができるので、活用していく必要がある。

●栃木県バスケットボール協会　S級審判員　大山 賢史 氏より
審判活動の中で具体的になりたい姿を目標設定し、振り返りを繰り返すことが大切である。試合を担当して、できたことや失敗したことを書き留めておくことも効果的である。さらに、日々指導してくれる人のもとへ足を運んだり、自分の理想とする人を決めたりすることも成長へ繋げることができる。
また、家族や職場の信頼を得ることや、スケジュール管理を徹底することも活動する上で重要である。

実技

担当試合	期　日	６月３日（土）	男子	Bブロック１回戦
	対戦カード	湘南工科大附（神奈川）　VS	水戸工業（茨城）	U2
	相手審判	CC：大木 裕一 氏（山梨）　U1：塚田 和稀 氏（栃木）		

ミーティング内容　　主任　小澤 朋克 氏

クルーでメカニクスの基本的なことや、チームの情報を確認してから試合に臨んだ。
オールコートでディフェンスが仕掛けるケースがあり、その際にトレイルとセンターの距離が遠くなってしまうことがあった。プレーとの距離やアングルを気にかけ、判定に繋げる必要がある場面があった。また、試合を通じて、リバウンドやスクリーンに関して、クルーで気にかけているものの、一貫した笛を入れ続けることができなかったことも課題となった。
TO管理については、クルーで意識して訂正に繋げることができた。

全体の感想

はじめに、大会の開催にご尽力いただきました茨城県協会の皆様、派遣していただきました埼玉県協会の皆様に感謝申し上げます。
大会へ参加させていただき、プレゼンテーションが特に課題だと感じました。注目の浴び方や、力強さ、声の使い方、手の挙げ方ひとつにしても、もっとこだわりを持って表現する必要性を感じました。プレゼンテーションを工夫することで周りに伝わりやすく、試合を円滑に進めていくことにつなげていきたいです。そのためには、日頃から高い意識を持って取り組み、良い習慣を身に付けたいと思います。
今回の経験を今後の活動に生かしていくと共に、還元できるよう精進して参ります。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	土屋　友由	所　　属	社会人連盟
大 会 名	令和５年度関東高等学校男子バスケットボール大会　兼 第７７回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会		
期　　間	２０２３年　6月３日　～　４日（参加日：６月３日）		
会　　場	アダストリアみとアリーナ		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
6月　1日	審判会議、研修会	ZOOM 会議　参加者自宅他
6月　3日	A,B ブロック　1・2回戦	アダストリアみとアリーナ
6月　4日	A,B ブロック　準決勝、決勝	アダストリアみとアリーナ

審判会議、研修会　講義内容

●関東ブロック　平原審判長挨拶

今大会は多くの S 級審判員が派遣されています。一緒に吹く方はぜひ色んなことを吸収してもらいたい。また決勝戦までと試合数も多いので、普段トップリーグを担当している方々がどのように判定しているのか見ていただき、研鑽を積んでいただければと思う。

●審判研修会

指名審判員：東京都　東祐二氏

▶On the court で全てを出し切る為に～Output の重要性～

・情報を得ることは比較的容易な環境の中で、いかにして自分が持っている知識・情報を on the court で表現できるか。

・『知っている』を『判定できる』まで持っていって欲しい。

・単純に『知識』はテーブル上で会話のトッピングを増やすためではなく、自分自身が見たことのない／出会ったことのない　ケースに対して on the court で（瞬時に）『決断する』ための材料にしてもらいたい。

▶Out put の阻害要因

外的要因　・準備段階での不安（このレベルのゲームは初めて。）　・過去の経験からくる不安（苦手な選手やコーチ）など

自分自身の内的要因　・小さいことを気にしすぎる、強すぎるこだわり　・情報過多（知識が消化不良）

・過緊張（体が硬直）など

▶Out put を促進させるもの

・自身と余裕　・勇気、『断固たる決意』　・思いきり（≒開き直り）　・目の前のことに集中しているメンタル

・引き出しからスムーズに知識を取り出すための『ひらめき』『アイディア』など

▶長年、審判経験を積んできて、気合を入れると『笛（の音など）』は強くなるが、体が硬直するので、反応が悪くなる気がする。

最終的には『**正しい判定をするための自分のスタイルを確立**』していってほしい。

指名審判員：栃木県　増渕泰久氏

▶審判後の振り返りに変化が出てきている。（映像を活用するようになった）

・映像ではできないこと　→　現場感、コミュニケーション、トップリーグと違う触れ合い　など

・映像が抜群に効果を発揮すること　→　メカニクスの追求と使い方、プレゼンテーションの工夫　など

▶審判員として

・個性、表現、考えの異なる人々が行なっている。　人と機械の違い、ON ⇄ OFF があることを理解しておく。

・コロナ禍後の関東大会として、映像だけではなく生の声で振り返り・共有することで有意義な時間にしていきましょう。

指名審判員：栃木県　大山智史氏

▶A 級、S 級審判員の昇格に向けて（大山氏が実際に取り組んだ方法）

目標の設定と振り返り　Bリーグで審判をしたいという目標を立て、1 試合ごとの振り返りを大切にした。

見てくれている方々からアドバイスをもらうことが、成長の近道。試合を吹いたら、必ずメモを取るようにしている。

▶自分に教えてくれる人、ロールモデルになる人を見つける

一人の力ではなかなか成長できないので、自分の背丈に合った方とか、教えてくれる人を見つけてついていくことが成長の早道。

▶信頼とスケジュール

職場、家族、友人、生徒色々な方々との繋がり・信頼関係があって、早めにスケジュールを確保・調整していくことで審判活動がスムーズにできるようになると思う。審判やりたいけど、周囲の支えがないとできないので、出来なくならないように。

担当試合①	
期　　日	6月3日（土）　A ブロック 1 回戦
対戦カード	土浦日本大学高等学校（茨城）vs 拓殖大学紅陵高等学校（千葉）
ク　ル　ー	CC：東祐二氏（指名）　U1：松永航平氏（東京）　U2：土屋友由
ミーティング内容	審判主任：―

▶ゲーム前の PGC

・ベーシックなメカニクスは出来ている前提で、ポジションアジャストにこだわってほしい。

・CtoC は RUN にならないようにプレイにアジャストしてレフリングをしていく。

・そのほか、新ルール等について映像も交えながら確認を行なった。

▶ゲーム後のミーティング（CC：東氏より）

（クルーとして）大きなトラブルなく終わった中で、今後はプレイヤー個人のファウル個数、ゲームの流れ、時間帯にもう少し意識を置いて、コール or ノーコールが判定できるようになってくると、より良くなっていくと思うので意識してほしい。

（個人として）TO 管理はとても丁寧に出来ているので継続していってほしい。加えて判定の中身としてセンタープレイヤー同士の整理（特にペイントエリア内）はリードだけでは手の掛け方など見えないものがあるので、トレイルから見えた時にアングルでコールする意識を持っておいて欲しい。

担当試合②	
期　　日	6月3日（土）　B ブロック 2 回戦
対戦カード	湘南工科大学附属高等学校（神奈川）vs 保善高等学校（東京）
ク　ル　ー	CC：斉藤貴嗣氏（東京）　U1：土屋友由　U2：鳩貝翔太氏（茨城）
ミーティング内容	審判主任：増渕泰久氏（指名）

▶ゲーム後のミーティング（クルー全体）

・オールコートプレスに対して、ボールサイドのハーフライン辺りで起きるダブルチームなどに対して、センターが協力しても良い場面があった。エンドラインからロングパスでハーフコート付近までボールが飛ぶとトレイルだけでは判定が難しいので、センターが残っていてプレーを見てほしい。

・エッジでのショットに対して、リードが見ないという意思表示を身体で示すのは良いことであるが、2or3 だけでも見てほしい。もしかしたらトレイルの目の前で選手が被ってしまって、シューターのつま先が確認できないことがあるので、リードが開くのが遅れてやペイントを厚く見たくてエッジを見ないのは分かるが、ショットのピークだけでも協力する意識を持ってほしい。

▶ゲーム後のミーティング（個人として）

・プレゼンテーションの工夫

・センターでボールをチェックインした時に角度を少しつけてポジションを 1 歩 2 歩あげた方がその後のプレーをよりクリーンに見えることがあるので、工夫してほしい。

全体の感想
昨年度まで A 級審査会への推薦で参加させていただいておりました関東男子に今回、昇格して初めて参加できたこと、本当に嬉しく思います。今大会よりコロナ禍以前の大会フォーマットに戻り、担当試合数も 1 日で 2 試合タフなゲームを割り当ていただきましたが、2 試合ともに現状の実力は出しつつも、また新たな課題を感じた試合でした。また今大会では多くの派遣審判員の皆様と試合を観戦しながら、レフリング向上のための考え方やポジションアジャスト、スカウティング方法などオンザコート以外での気づきや学びも多く、コロナ禍で出来ていなかった一緒に試合を見て感じることが出来たのも非常に有意義な時間でした。今大会で得た気づきや学びをしっかりと自身の審判技術向上に活かすとともに、県内の皆様にも還元できるようまた精進していきたいと思います。 最後になりましたが、大会期間前から準備いただき、大会期間中も細部までお気遣いいただきました茨城県バスケットボール協会の皆様をはじめ、関東ブロック審判長　平原様、講義をご担当いただきました指名審判員の東様、増渕様、大山様、そして割当クルー及び大会期間中にお世話になりました TO 役員他大会関係者全ての皆様に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。